

I. 地域概況 Geographischer Überblick

1. 位置 Lage

若狭湾沿岸地域は海崖地形の発達する半島、沈降湾の散在する複雑な海岸線、三方五湖、青葉山などのすぐれた自然景観にめぐまれており、昭和30年6月に「若狭湾国定公園」に指定されている。

植生調査および植生図化の対象とされた地域は、若狭湾国定公園のほぼ中央に位置している福井県大島半島の先端部に建設された関西電力(株)大飯原子力発電所を中心とする半径30kmの範囲となっている。

30km圏の北半分は日本海から湾入している若狭湾からなる海域となっている。一方南半分は福井県南西部の嶺南地域の大部分、滋賀県北西部の湖北地方そして京都府の舞鶴市とその南に広がる丹波高地からなる陸域となっている (Fig. 1)。

2. 気候 Klima

若狭湾沿岸地域は北陸地方から続く典型的な日本海岸気候下にある。年平均気温は14～15℃で、近畿地方の太平洋沿岸地域に比べると低いが、日本海を北上する暖流（対島海流）の影響もあり北陸地方以东に比べると暖い。また冬季の降雨も最深積雪が2 m以上となる滋賀県北部の野坂山地をのぞけば、若狭湾沿岸地域の大部分は比較的雪が少ない。内陸山地でも最深積雪は1～2 m前後である (Fig. 2)。

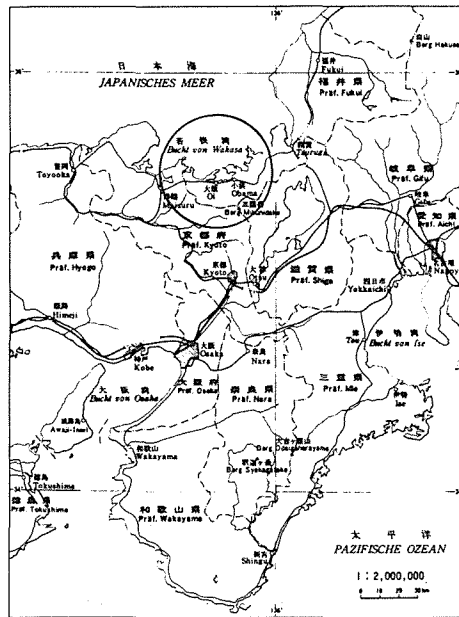


Fig. 1. 調査地域位置図。Lage des Untersuchungsgebietes.

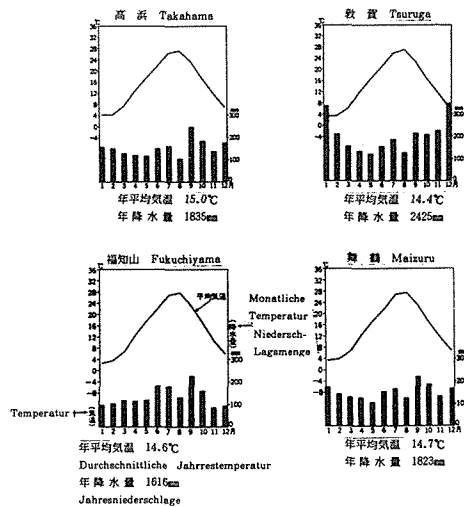


Fig. 2. 若狭湾周辺地域の代表地点における気温と降水量の年変化

(青野・尾留川1977より一部変更)。

Jahresverlauf der Temperatur und des Niederschlags in vier Orten in der Umgebung der Bucht von Wakasa(nach Aono und Birukawa 1977, zum Teil verändert).

3. 地 形 Topographie

若狭湾沿岸の海岸線は常神、内外海、大島、内浦などの半島が海につきでており、また小浜湾、内浦湾、舞鶴湾などが深く入り込むなど複雑に入りこんでいる。半島の先端部にはしばしば海崖地形が発達しており、内外海半島にある蘇洞門はその中でも最大規模のものである。

若狭湾にそそぐ北川、南川、佐分利川、祖母谷川、与保呂川の下流域には、三方低地、小浜平野、高浜低地、舞鶴低地などの沖積低地が発達している。三方低地の北部には、三方湖、水月湖、菅湖、久々子湖、日向湖からなる三方五湖がみられる。

一般に若狭湾沿岸地域では沖積低地に接して山地が海岸線近くまでせまってきたている。沿岸部には標高700m以上の山岳は少ないが、雲谷山（787m）、久須夜ヶ岳（619m）、青葉山（699m）などの山が屹立している。とくにコニーデ型の美しい山型を若狭湾にうつしている青葉山は第四紀洪積世の噴火活動でできた山である（Fig. 3）。

内陸部の山地は東部の野坂山地、中央から西部にかけては、近畿地方の北部に広く発達している丹波高地の北部山地を形成する標高800～900mの山稜の連なる若丹山地からなっている（Fig. 4）。



Fig . 3 . コニーデ型の美しい山型を若狭湾にうつしている青葉山（高浜町 岩神）。

Bucht von Wakasa mit Kegelförmigem Berg Aobayama (699m ü. NN , Iwagami , Takahama - cho).

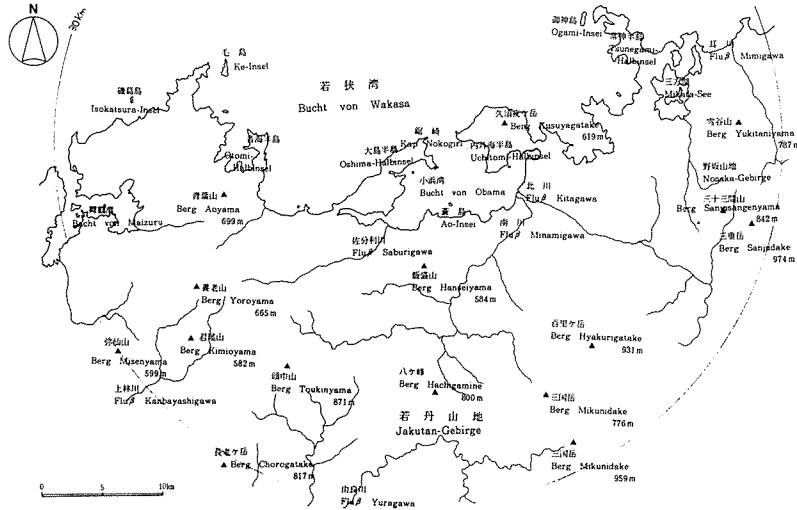


Fig . 4 . 若狭湾沿岸地域の地勢図。

Topographische Karte des Gebietes der Bucht von Wakasa. Das Gebiet innerhalb des Kreises wurde vegetationskundlich studiert.

4 . 地 質 Geologie

若狭湾沿岸地域および内陸部の若丹山地の地質構造をみると、その大部分はチャートを含んだ砂岩、粘板岩、頁岩を主体とした古生層岩類からなる丹波層群からなっている。内外海半島の先端、野坂山地の雲谷山一帯、舞鶴市の北部には白亜紀後半に貫入した花崗岩層がみられる。斑れい岩、閃緑岩、輝緑岩など変成岩類からなる舞鶴層群は、舞鶴市から大島半島にかけて、南西～北東方向にはしっている。その上に位置する大島半島には一部蛇紋岩類からなる地域がみられる。

青葉山一帯は第四紀洪積世に噴出した安山岩、玄武岩などの火山岩類が分布している。また舞鶴湾東部の山地には流紋岩からなる有馬層群の一部が分布している。

5 . 土 壤 Böden

若狭湾沿岸地域の丘陵、山地に分布する土壌の大部分は褐色森林土で、その内、山地の尾根や斜面上部には乾性褐色土壌が分布し、斜面中～下部にかけて、そして谷間には褐色森林土壌が分布している。また一部に黄赤色土が含まれている。大島半島には比較的広い範囲で蛇紋岩など超塩基性岩類を母材とした暗赤色土壌が分布している (Fig . 5) 。

現在水田となっている沖積低地の大部分は灰色低地土壌からなるが、地下水位の高い後背湿地などには一部グライ土壌が発達している。嶺南地域を流れる南川の上流域、青葉山の山麓には一部黒ボク土壌が分布している。

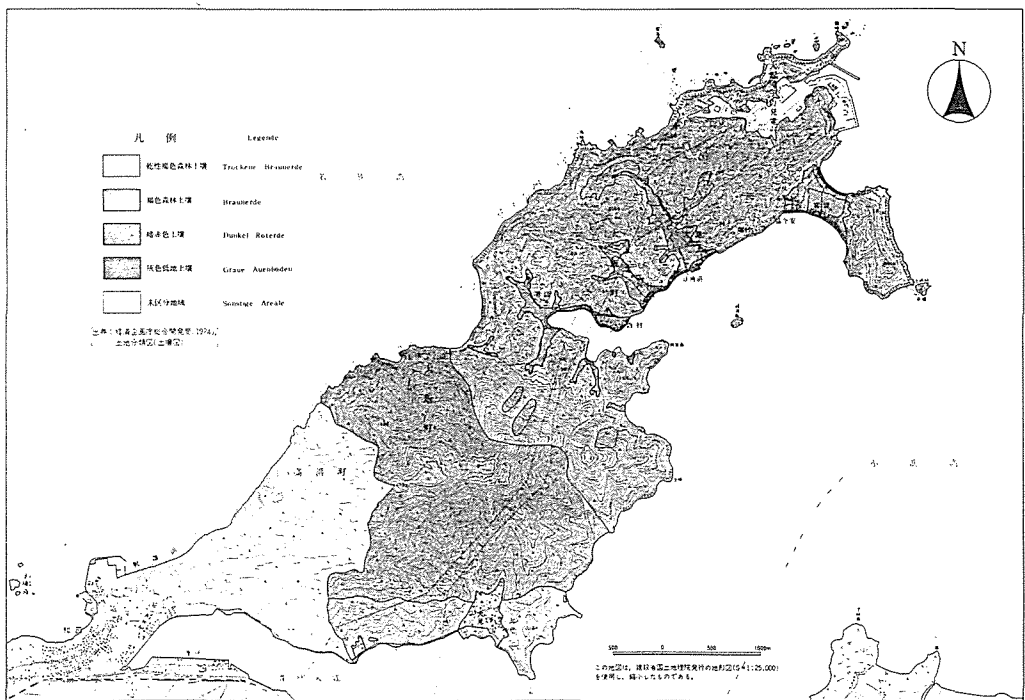


Fig. 5 大島半島土壤図（経済企画庁1974より一部変更）。

Bodenkarte der Ohsima-Halbinsel (nach Ministerium für
Wirtschaftsplanung 1974, z. T. verändert).

6. 植物および自然植生 Flora und natürliche Vegetation

若狭湾沿岸地域のフロラ（植物相）の特徴として次のことがあげられる。すなわち若狭湾沿岸地域では日本海を北上する暖流の影響もあり、島嶼部や沿海部にはナタオレノキ、リンボク、タラヨウなどの暖地生植物が南からその分布を拡げてきている。またその一方で、海岸にはハマナス、ハマニソクなどの北方系の植物や、ヒメモチ、エゾユズリハ、ヒメアオキなど日本海側多雪地を中心に生育している日本海要素の植物が北陸地方から南下してきている。

気候、地形、地質、土壌などの自然環境を反映して若狭湾沿岸地域には多様な自然植生が分布、生育している。沿海部では海岸線から海拔400～450mまではスダジイ、タブノキ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹を主とするヤブツバキクラス域で、それ以上はブナ、ミズナラなど夏緑広葉樹の優占するブナクラス域となる。内陸部の若丹山地ではいくぶんブナクラス域が下降しており海拔300～350mまではヤブツバキクラス域で、その上限付近ではスギ、モミなどの常緑針葉樹の優占する植生がみられる。

II. 調査対象と調査方法 Untersuchungsgegenstand und Methode

1. 調査対象 Untersuchungsgegenstand

大飯原子力発電所増設にともなう若狭湾沿岸30km圏の植生調査は昭和57年（1982）7月22日に始まり昭和58年2月12日までの間につごう5回の現地踏査（のべ124人）が行なわれた。その結果221地点におよぶ植生調査資料が得られた。また大島半島では昭和57年（1982）と昭和58年（1983）の2回にわたって11ヶ所の土壌断面調査と土壌分析のための土壌サンプリングが行な